

ペタンク なかなか奥が深い

市民ら34人 仏文化に親しむ

弘前

弘前大学フランス語ホームページを運営する「弘前×フランス」プロジェクト（代表・熊野真規子人文社会科学部准教授）は15日、弘前市の弘前公園レクリエーション広場でフランス発祥の球技「ペタンク」のイベントを開いた。市民や学生ら34人がペタンクの試合を楽しみながら、フランス

文化に親しんだ。

イベントは同プロジェクト

と市ペタンク協会が共同主催。2チームがそれぞれ6つの鉄球「ブルー」を投げ、カーリングと同じ要領で標



弘前公園レクリエーション広場でペタンクを楽しむ参加者

的に近い球数を競うルールで参加チームが総当たり戦を展開。参加者たちは青空の下、声を掛け合いながらゲームを楽しんだ。ペタンクは初めてという弘大理工学部2年の藤田訓土さん（19）は「単純そうに見えたけど、コントロールが難しかった」、人文学部2年の山内まどかさん（19）は「やってみてペタンクの奥の深さが分かった。楽しい競技だ」と思うこと笑顔を見せた。

熊野代表は「ペタンクを楽しむことでフランス語やフランス文化に触れることができる。年齢・性別に関係なく気軽にできるスポーツなので、もっと広がってほしい」と話した。同プロジェクトは9月下旬、同市土手町の蓬萊広場でフランス文化などを紹介するイベント「フランス日和×マルシェ2016」を開く。

（夏坂昌芳）

東奥日報 平成28年5月19日 19面 掲載

この画像は、当該ページに限って東奥日報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。